

14世紀の抒情詩人 Dafydd ap Gwilym

吉岡治郎

A Fourteenth Century Lyric Poet Dafydd ap Gwilym

Jiro Yoshioka

Abstract: Dafydd ap Gwilym is said to be the greatest Welsh poet of all ages. He lived in the age of Edward III. He was a decent of *uchelwyr* [=noblemen] and in his day many poets came from this high class gentry. He is, to be sure, a true successor of Welsh literary tradition, but he also received influence from a Roman poet Ovid widely read throughout the Middle Ages. He was a distinguished poet of great renown, as a result, his influence on other poets was so great that many other works were attributed to him. At present his work is thought to consist of 150 poems. His exquisite expression of nature around him has been held in great esteem.

Dafydd ap Gwilym はウェールズの全ての時代を通じての最大の詩人であるとの評価は確固として定まっている。彼の生きた時代は Edward III の時代であり、それはまた百年戦争の初期の時代でもあった。彼の生年・没年ははっきりしないが、彼の詩の最高潮の時期は 1340 年代、1350 年代とされている。彼と前後するヨーロッパの他の国の詩人・文学者としては特にイタリアで Dante (1265-1321) が少し前の時代、同時代としては Petrarca (1303-74), Boccaccio (1313-1375) がおり、14 世紀を代表するイギリスの文人・宗教人たちの Chaucer (1340?-1440), Langland (1330-1400), Gower (1330?-1408), Wyclif (1320?-1384) よりは少し前の時代の詩人である。同時代の少し後輩のウェールズの詩人としては Iolo Goch (1325-98) が著名であり、彼の Dafydd ap Gwilym を称える詩が残っている。

Dafydd ap Gwilym は Aberystwyth の北数マイルの Brogynin の生まれであり、Strata Florida の修道院[現在は廢墟]に埋葬されたと言われており（異説もあるようではあるがここでは詳しくは触れない）、そのことについての銅版が壁に嵌め込まれている。彼は南ウェールズの貴族階級にその出自を持ち、その伯父（あるいは叔父）は大きな勢力を持ち、百年戦争のある時期に活躍した著名な the Black Prince に忠誠を誓った一人である。非常に豊かな学識の所有者であるその伯父（叔父）の影響が大であると言われてている。

日本の英文学系の方が Dafydd ap Gwilym の名前を始めて目にされたのは Ford, B. ed.: *The New Pelican Guide to English Literature 1. Medieval*

Literature Part Two: The European Inheritance の Sims-Williams による Dafydd ap Gwylim and Celtic Literature においてであると推察される。簡潔な文ではあるがケルト学の碩学の筆になるものであり、May, Summer, the Mist, Disillusionment の4篇の詩の訳を含み、そこで述べられていることは示唆に富むものである。しかしその後日本では彼の詩についての言及は久しくなかった。本発表者はそのことをいたく残念に思い、力の不足は十分に意識しつつも、原文ウェールズ語に対して一語一語の注釈を試み、それに邦訳（訳といえるものでなく大まかな内容を伝えるものでしかないが）を付してきた。現在までに注釈を試みることができたのは、全作品のまだ十分の一あまりであるが、今後も一篇一篇の注釈を続けてゆき彼の詩の注釈を通じて彼の詩作品の持つ多面性を日本に紹介したい。

Dafydd ap Gwylim はウェールズにあっては非常に著名な詩人であり、その影響も大きく、彼の影響の下に詩作した詩人たちの作品が長らく彼の作品とされていた。Thomas Parry が多くの写本を調査し、厳密な基準を設定して、以前 Dafydd ap Gwylim の作とされていた作品から100くらいの作品を排除した。残りの150篇あまりの作品が彼自身の作品であると認定された。その作品群は Parry, Tomas (1904-85): *Gwaith Dafydd ap Gwilym* [Work of Dafydd ap Gwilym] (1952, 63)に含まれている、現在までの決定版である。その後色々な学者から少数の作品の追加も提案されてきているが、細かな問題を含み繁雑になるのでここでは触れない。

彼に対するヨーロッパの他国の文学からの影響についても詳しい調査がなされており、ローマの詩人 Ovidius (43BC-17?AD)の作品 *Amores, Ars Amatoria* などに親しんでいた、直接の言及が彼の詩作品の中でなされている（たとえば Yr Haf [The Summer] などにおいて）。また、*Le Roman de la Rose*『薔薇物語』の影響なども詳しく論じられてきた。この問題について詳しくは、Chotzen, T. H.: *Recherches sur la poesie de Dafydd ap Gwilym* (1927), Hulton, Helen: *Dafydd ap Gwilym and the European Context* (1989) がある。Chotzen の研究書は大部なものであり大変な労作であるが、Parry によるテキストの確定以前の研究書であるので、その点について充分の考慮を払う必要がある。彼は当然ウェールズの詩の伝統は十分に受け継いでいるわけであるが、彼より前の時代の詩以外に、散文の *Mabinogion* や現存していない他の物語などに親しんでいたものと思える。*Y Breuddwyd* (The Dream) と *Breuddwyd Maccsen* (The Dream of Maccsen Wledig) [Mabinogion に含まれている一作品]との関係についても論じられている。

彼の抒情詩はその内容も多岐に亘るわけであるが、ここでは彼の作品 56 篇を

含む Bromwich, Rachel: *Dafydd ap Gwilym, A Selection of Poems* (1982)の分類に基づきその内容を紹介する。I. Love at All Seasons. II. Morfydd, Dyddgu [彼の作品に姿をあらわす sweetheart の名前], and Others. III. Birds and Animals. IV. Other Messengers of Love. V. Love's Frustrations. VI. Addresses to Friends. VIII. The Poet's Meditations. (この分類に当て嵌まる具体的な詩については同書を参照されたい)

彼の詩にあらわれる細やかでよく特徴を捉えた自然観察(III. Birds and Animals に含まれる詩以外にも May and January, May Month, Summer, The Wind, The Star などにもそれはうかがわれる)は同時代の他言語の作品にもその類を見ぬ程精妙なものとして高い評価を受けている。